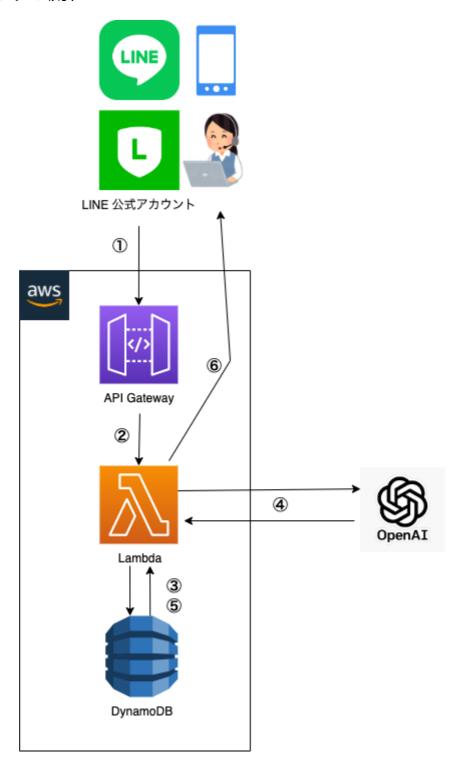
# LINE で OpenAI 社の API と連携するチャットボットを作ってみた (ChatGPT)

構成とやりとりの流れ



- 1. LINE 公式アカウントの Messaging API を用いて AWS の API Gateway に紐付いている URL に Webhook イベントを送信する
- 2. AWS Lambda に連携
- 3. AWS DynamoDB に会話を保存 + 過去の会話履歴を新しい方から適当な分だけ取得
- 4. OpenAI 社の API を叩いて返答を得る

- 5. AWS DynamoDB に返答を保存
- 6. MessagingAPI の Reply API を叩いて返事を LINE に送信

## 1. MessagingAPI で Webhook イベント送信 -> 2. Lambda に連携

LINE 公式アカウントを作る



Messaging API設定 にて AWS の API Gateway に紐付いている URL を Webhook URL に設定し、利用を有効



LINE 公式アカウントとのトークでメッセージを送信

今日

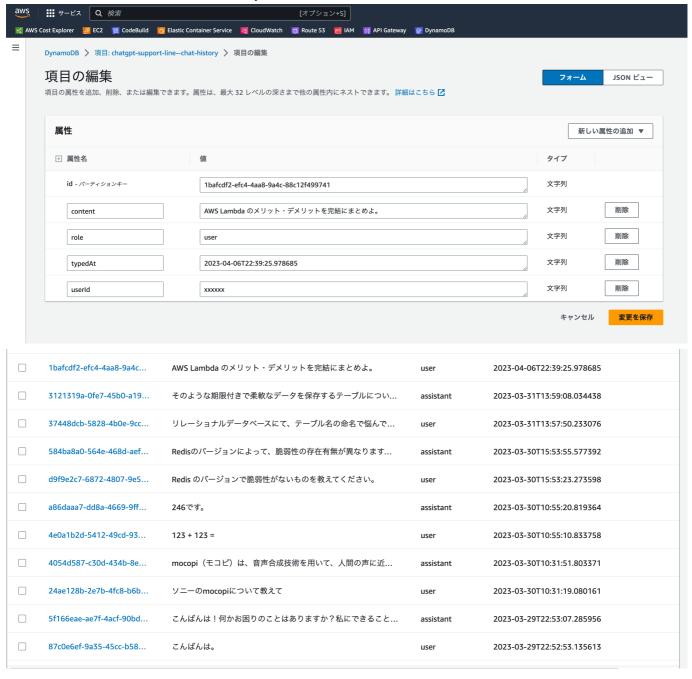
午後 10:39

AWS Lambda のメリット・デメリットを完結にまとめよ。

この発言内容が API Gateway 経由で Lambda に連携される

# 3. DynamoDB に会話を保存 + 過去の会話履歴を取得

Lambda で受け取った発言内容をまずは DynamoDB に保存 + 過去の会話履歴を取得する



過去の発言を新しい方からいくらか取得する理由は、4.で OpenAI 社の API を叩く際に、AI が会話の文脈を理解できるようにするためです

#### また、カラムは

- ID(ランダム文字列)
- 本文
- ロール
- 発言日時
- ユーザーID (LINEユーザーごとの一意の値)

を設けていますが、一例なので過不足はあるかもしれません ロールについては後述します

## 4. OpenAI 社の API と連携 -> 5. DynamoDB に返答を保存

いよいよ OpenAI 社の API を叩きます

その際必要になるものは主に以下のようなものがあります

• model:モデル。後述

maxTokens: API から返却される最大のトークン数 (≒ 文字数 (厳密には違う))

• temperature:高い値だとより複雑な文章を生成できるが不自然になる可能性も含んでいる

• messages: 会話内容

role:ロール。後述content:内容

OpenAI 社では用途に応じて様々なモデルを用意してくれています 以下が主なモデルです

base model	model	max tokens	特徴
GPT-3.5	text-davinci- 003	4,097	最も高性能
GPT-3.5	gpt-3.5-turbo	4,096	davinci より小規模で高速でコストも davinci の 1/10
GPT-4	gpt-4-32k	32,768	どの GPT-3.5 モデルよりも能力が高く、より複雑なタスクを実行 できる
Codex	code-davinci- 002	8,001	自然言語をコードに変換するのが得意
Whisper	whisper-1	-	音声認識モデルであり、多言語の音声認識、音声翻訳、言語識別 を実行できる

メッセージには本文の他にロールも渡します。ロールには以下の3つがあります。

• system: Al の設定などを記述

。 ex. ○○という設定で会話をします / 口調のサンプルは「~~」です など

assistant : AI の発言user : ユーザーの発言

API を叩く際には API key が必要になるので、予め OpenAI 社のコンソールで確認して Lambda に設定しておきましょう

# **API keys**

Your secret API keys are listed below. Please note that we do not display your secret API keys again after you generate them.

Do not share your API key with others, or expose it in the browser or other client-side code. In order to protect the security of your account, OpenAI may also automatically rotate any API key that we've found has leaked publicly.



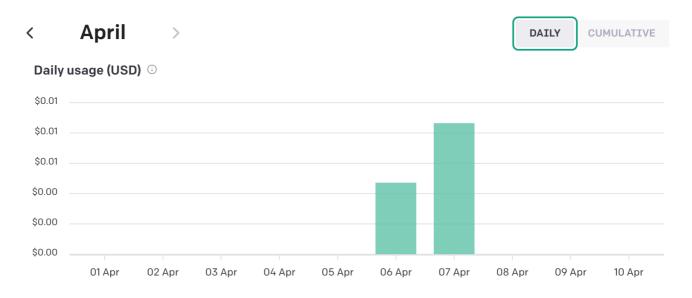
API を叩くとしばらくして返事が返ってくるので、次の発言時に過去の会話を投げられるようにするため、AI からの返答を保存しておきます。



なお、今回用いているのは gpt-3.5-turbo で、1,000トークンあたり 0.002ドル(約0.26円)です。 普段遣いの軽い会話くらいだと大してコストは掛からないようです。

# **Usage**

Below you'll find a summary of API usage for your organization. All dates and times are UTC-based, and data may be delayed up to 5 minutes.



## Free trial usage



## 6. MessagingAPI の Reply API を叩いて返事を LINE に送信

最後に返事を LINE のトークに返却します。

使用するのは Messaging API の Reply API です 必要になるのは、まず LINE 公式アカウントのコンソールから 確認できる 長期アクセストークン です



もう一つが、当初メッセージを受け取ったときに一緒に受け取っている replyToken です

```
body:
{
    "destination": "xxxxxxxxxxxxxxxxx",
    "events": Γ
        {
            "type": "message",
            "message": {
                "type": "text",
                "id": "11111111111111",
                "text": "なるほど、メリットが多いんですね。"
            },
            "webhookEventId": "ABABABABABABAB",
            "deliveryContext": {
                "isRedelivery": false
            },
            "timestamp": 1681133223393,
            "source": {
                "type": "user",
                "userId": "xxxxxxxxxxxxxxxx"
             replyToken": "fugafugafugafugafugafugafugafuga"
             "mode": "active"
        }
    ]
}
```

この2つを用いて返信用のエンドポイント(https://api.line.me/v2/bot/message/reply)に POSTすると...以下のように LINE にて返事を受け取ることができます



AWS Lambdaのメリットとデメリットは以下の通りです。

## 【メリット】

- 1. サーバーレスアーキテクチャー: サーバーが不要であり、AWSがインフラへの専念を通じてLambdaを管理するため、AWS Lambdaはサーバーレスアーキテクチャーで構成され、スケーラビリティと信頼性を提供します。
- 2. 低コスト: AWS Lambdaは、実行されたコードに基づいて課金されるため、料金が発生するのは実際に使用されたリソースのみです。また、EC2などの仮想サーバーよりも低コストで実行できます。
- 3. 高速起動:AWS Lambdaは、高速な起動時間を持つため、リクエストの量や処理時間に基づいてスケールすることができます。こ

れは、需要が急増するときにサービスのパフォーマンスが低下する ことを防止するために役立ちます。

4. マネージドサービス: AWS Lambdaは、AWSのマネージドサービスとして提供されているため、アプリケーションのデプロイ、運用、管理などを負担する必要がありません。

5. シームレスな統合: AWS Lambdaは、他のAWSサービスと簡単に統合できます。たとえば、API Gateway、DynamoDB、S3など、他のさまざまなサービスとシームレスに統合できます。

## 【デメリット】

- 1. ローカル開発の難しさ:AWS Lambdaはクラウド上で処理を実行することが必要であるため、ローカルでの開発を行う際にはシミュレータやツールの導入が必要になる場合があり、環境構築に時間がかかることがあります。
- 2. 通信の遅延: AWS Lambdaはネットワークを通じて実行される ため、通信速度が遅い場合や位置情報などのリアルタイム性が必要 な場合には、遅延が発生する可能性があります。
- 3. ランタイムの制限:AWS Lambdaは、サポートされているランタイムの中から選択する必要があります。また、ランタイムによってサポートされている機能が異なるため、特定のミドルウェアやパッケージを使用することができない場合があります。



メッセージを入力

なお、先述のように直近の会話も一緒に投げているので、以下のように会話を続けると細かい説明無しで文脈も把握 した上で返事をしてくれます。

なるほど、メリットが多いんですね。

↓ 返事

#### ここから未読メッセージ



はい、AWS Lambdaにはメリットが多くあります。特に、低コストや高速起動など、アプリケーションのスケーラビリティと信頼性を向上させることができる点が大きなメリットです。

ただし、AWS Lambdaはサーバーレスアーキテクチャーであるため、クラウド上でコードを実行するというアプローチになります。 そのため、アプリケーションによっては挙動が異なったり、通信の 遅延が発生する場合があります。また、ローカル開発に時間がかか ることもデメリットの一つです。

あまり呼ばれないAPIを運用する場合には、AWS Lambdaが向いている場合もあれば、AWS上で適切な仮想マシンを立ち上げるほうが向いている場合もあります。APIの利用状況や、コスト、開発環境などを考慮し、最適な選択肢を検討することが重要です。

午後 10:27

## **TODO**

- 実装が暫定のかたまり
  - 途中で力尽きたので近々直します
- 過去の会話を投げる部分は max\_tokens を数えてから投げないとエラーになって DB 修正をしないと再起不能 になる
- グループに公式アカウントを招待しても使えることは確認済だが、グループ内の会話だけを見分ける方法はあるか?
  - o グループに所属しているユーザーの ID が判別できればよさそうだが...
  - o LINE 公式アカウントにお詳しい方がいらっしゃいましたら教えて下さい。
- 現在 GPT-4 申し込み中 (wktk

#### **DEMO**

デモる